

## 【家庭教育支援チーム】

チーム名 (呼称)	坂東市訪問型家庭教育支援チーム
活動開始年度	平成 28 年度
活動拠点	坂東市役所 (教育委員会生涯学習課)
活動範囲	坂東市内小中学区全域
活動財源	<input type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(地域における家庭教育支援総合推進事業) <input checked="" type="checkbox"/> 文部科学省委託事業(先駆的家庭教育支援推進事業) <input type="checkbox"/> 地方単独事業として実施 <input type="checkbox"/> 特段の予算措置はないが、自主的に活動を実施 <input type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施 ( )
組織体制	<u>10 人</u> 元教員 3人、元保育園所長1人、民生委員 1人、社会教育委員 1名 更生保護女性会員 1名 分館関係者 2名、元団体職員 1名
具体的な活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小中学校において、不登校児童生徒をもつ家庭に対し、訪問及び不安や悩みを傾聴することで保護者に寄り添い、市福祉課等と連携した家庭問題の解決を図り、不登校児童生徒の健全な教育環境への改善を図る。具体的には、月に2～3回ペースで訪問したり、電話や手紙、メール等でも相談を行ったりする。</li> <li>・定期的に年7回の協議会を実施し、協議会委員及び外部講師等に報告を行い、今後の対応策を検討したり助言をもらったりする。</li> <li>・支援員は2名で1チームとし、2つの家庭を担当する。学校とのケース会議にも参加し、担任やスクールカウンセラー、生徒指導担当教諭や養護教諭と情報交換を行いながら家庭支援を行う。</li> <li>・家庭の要望により、学習の補助や、進学および就職についての相談を受けることがあるので、学校や地域と協力した支援を行っている。具体的には就労に向けた職場体験などを実施している。</li> <li>・訪問した内容を記録し、成果や課題についてまとめ、今後の方向性について協議を行う。</li> <li>・支援員養成講座に参加し、スキルアップに努めている。具体的には訪問時のコミュニケーションスキルや傾聴スキルについてである。</li> </ul>

<p>活動を通して感じていること (成果、課題など)</p>	<p>・保護者と家庭環境を変えることは一番難しいことである。保護者の価値観は様々であり、「今の状況の何が悪いのか」について気づかない場合もあれば、「とにかく子どもをどうにかしたい」と願う保護者もいる。それぞれのケースに対し、頭ごなしに指導改善を促すのではなく、とにかく傾聴し、信頼関係を築いたうえで少しずつアドバイスを加えていくという時間がかかる活動であり、何かが劇的に変化するわけではない。事業の成果は、児童生徒が改善された家庭環境をもとに、どう変容していくかによって示されるもので、数値的に表せるものではない。</p> <p>現在、訪問を受け入れるだけの状態であった家庭の中で、2つの家庭が支援員や事務局に連絡をしてくれるようになった。地道な訪問や連絡が実を結び、信頼関係を築けた結果と考える。どの家庭においても初期の段階は「どうしてうちにくるのか」といった疑念をもたれるケースが多い。「学校と連携し、みんなで応援するためです。」という熱意を伝え、「お子さんのためにお互いに頑張りましょう」という状況になるまでの道のりは簡単ではない。今後も「届ける支援」という使命感をもち、誠意をもって訪問、支援を行っていきたい。</p>
<p>問合せ先</p>	<p>(部署・氏名等) 坂東市教育委員会生涯学習課 社会教育主事 鈴木 忠雄</p> <p>(TEL)0297-21-2204(直通)</p> <p>(E-mail)gakusyu@city.bando.lg.jp</p>